



プロジェクト名

鳥取県で生産されている農産物を探る

本プロジェクト研究では、鳥取県で生産されている農産物を題材として、農産物生産における①現在の到達点、②抱えている課題、について学生が調査し、生産を継続させていくためには何が必要なのかについて考えることをテーマとしました。その中で、メンバーを3つのグループに分け、Aグループが星空舞を、Bグループが梨を、Cグループがらっきょうを研究対象とし、それぞれ聞き取り調査を行いました。

Aグループは、3人が農業試験場への、残りの3人が鳥取県食のみやこ推進課への聞き取り調査を行いました。農業試験場では主に生産者サイドの課題や星空舞の普及率、品質向上のための改良過程について学習し、実際に星空舞を作る生産者への取材等を行いました。食のみやこ推進課では、星空舞のP



▲らっきょう生産農家への聞き取り調査
(JA鳥取いなば福部支店にて)

R活動や普及率上昇に向けた戦略、輸出・県外販売、こういったメディアに出たことでどんな反響があったのか等の星空舞の商業的な部分に関して学習しました。

Bグループは、梨園を訪問するとともに、地球温暖化の影響について生産者から聞き取り調査を行いました。九州ではすでに気温が高くなった影響で梨の花芽がつかなくなるなどの問題が発生しており、鳥取でも温暖化に対する対策が必要であることを学習しました。

Cグループは、らっきょう生産農家・農協職員・県の普及担当者の方への聞き取り調査を行い、らっきょう栽培の年間スケジュールについて説明を受けるとともに、全て手作業で防除作業をする必要があることや、年間を通して草取り作業が必要なこと、労働力不足の問題を抱えており、特に植え付け作業と収穫後の調整作業は機械化が難しく、これらの作業の労働力をいかに確保するかが重要であること等を学習しました。



▲現在のらっきょうの様子(2021年12月9日撮影)

今後は、聞き取り調査で学んだことをまとめるとともに、それぞれの作物において、課題解決に向けてどのような取組を行う必要があるのか、グループ内でのディスカッションをもとに検討していくことを予定しています。

プロジェクトアドバイザー 経営学部 山口 和宏 講師

プロジェクトメンバー
プロジェクト研究2
〈環境学部〉片山 八広、鶴 莉子、戸谷谷 桃羽、三浦 悠
弓場 慧人
〈経営学部〉今岡 飛翔、藤本 海斗、松本 尚也、山本 風沙
プロジェクト研究4
〈環境学部〉尾前 輝幸、柿田 想真、加藤 大雅、正田 颯音
留岡 あみ
〈経営学部〉池成 彩華、小島 優、徳永 光晟、中田 陽斗

※今回ご紹介したプロジェクト研究は2021年度後期に実施したものです。

株式会社鳥取再資源化研究所と公立鳥取環境大学の覚書を締結しました

2021年9月7日、大学本部講義棟3階大会議室にて、株式会社鳥取再資源化研究所と公立鳥取環境大学の覚書締結式を行いました。

2021年5月21日に鳥取市が選定されたSDGs未来都市の取組みの一翼を担うべく、発泡ガラスの利用に関する研究を共同で進めることについての覚書です。

鳥取再資源化研究所の馬場研究員を本学の客員研究員として受け入れることで、本学の有する研究設備や微生物に関する知見を馬場研究員が効率的に活用できる環境を整え、SDGs未来都市計画で掲げている微生物発電の実用化とそれを利用したスマート農業の実現を目指します。



▲覚書締結式

本学で放牧しているヤギと気象要素の関係についての研究を発表しました

環境学部の重田准教授のチームは、2019年から学内で飼育している日本ザネン雑種の雌ヤギを対象として、気象要素の変化がヤギの行動に与える影響について分析を行っています。研究では、畜舎内や屋外で連続的に温熱環境を測定したほか、ヤギの首輪にGPSを設置し行動範囲を記録しました。その結果、畜舎(屋内)の方が放牧場(屋外)に比べて暑熱ストレス強度が高い(高温環境化)にもかかわらず、利用率が60%を超えており、居住時間が長いことがわかりました。さらに、気象要素と利用率の関係性について分析を進めた結果、高